

『銀行員大失業時代』 森本紀行著

刊行のお知らせ

株式会社小学館 出版局

平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび弊社では、『銀行員大失業時代』（小学館新書）を2017年8月1日に刊行いたします。

米シティバンクは、フィンテックの影響で今後10年間に3割が失職すると予測しています。海外ではすでに金融界の大きな変革が始まっています。一方、日本の銀行は、リーマンショック後の世界的金融危機にも大きな影響は受けず、人員もシステムも旧態依然としたままでした。そこにフィンテックによる効率化の嵐が襲来すれば、3割ではすみません。5割、場合によっては7割の銀行員が失職するのではないか、と著者は予測します。そして時代に対応できなかった銀行も消え、あるいは姿を変えていきます。成長を忘れ、銀行にしがみついていた人たちに未来はありません。

では日本の金融界はお真真っ暗なのか。著者は、体力のある日本の銀行が顧客本位の業務運営のもと、フィンテックをうまく取り入れて変革していけば、世界をリードする存在になれるといいます。日本の金融界はどう変わっていくのか。その時に活躍している真のバンカーとはどんな努力をした人なのか。覚悟が求められる時代の銀行員の生き方を、Yahoo!で高い評価を受けている辛口金融コラム「哲学的産業金融論」の著者が提言します。



【目次】

- 第1章 フィンテックの本質を見誤るな
- 第2章 日本の金融事情とフィンテック
- 第3章 生き残る銀行の戦略とは何か?
- 第4章 淘汰される銀行員と勝ち残る銀行員
- 第5章 フィンテックを使いこなす人、使われる人

【著者プロフィール】

森本紀行（もりもと・のりゆき）

1957年、北海道帯広市生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。三井生命で年金資産運用に携わった後、1990年、ワイアット（現ウイリス・タワーズワトソン）入社。企業年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を日本で初めて立ち上げる。2002年、HCアセットマネジメントを設立し、世界中の投資機会を発掘して運用委託する新しい資産運用事業を始める。現在、同社代表取締役社長。金融界を辛口に分析するYahoo!の人気コラム「哲学的産業金融論」は240回を超え、業界から高い評価を受けている。

【お問い合わせ先】 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
株式会社小学館 出版局 榎田一也
TEL 03-3230-5141
FAX 03-3230-5323

Email: sakakida@mail.shogakukan.co.jp

【判型】新書判（小学館新書）、224頁

【定価】本体780円+税

【発売】2017年8月1日